

令和元年6月29日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K01200

研究課題名（和文）博物館活動アーカイブス・モデルの構築

研究課題名（英文）Construction of a model for the museums archives

研究代表者

矢島 國雄 (YAJIMA, Kunio)

明治大学・文学部・専任教授

研究者番号：70130838

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：博物館活動の諸記録（博物館アーカイブス）がどのように保存管理され、継承されているのかについて、全国の博物館へのアンケート調査を行い、実態を調査するとともに、アメリカ、イギリスにおける現状の博物館のアーカイブスがどのように構築されているのかを調査した。

この結果、我が国の博物館アーカイブスの現状は、自治体の文書管理規定に沿うような制度的アーカイブスに関してはルールに沿って運用されているとはいえ、博物館独自に必要とされる学芸系のアーカイブスについては明確なルールはなく、活動の諸記録の扱いには博物館ごとの差異が大きいことが判明した。この領域のアーカイブスに関するルール作りが急務である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

博物館活動の社会的意味を考えれば、その社会的アカウンタビリティを常に明らかにし、社会の理解を推進するうえで、博物館活動の諸記録が常に開示され、社会的な検討が可能であらしめねばならない。入館者数や諸活動への参加者数、予算執行などの関する諸記録は、ホームページや年報などで公開され、また自治体であれば公文書の管理規定によって保存と公開が行われている。

しかし、博物館活動の根幹となる調査研究、収集資料、展示等に関しては、その活動内容の諸記録の保存や公開に関して必ずしも明確なルールはない状態で、この問題を解決し、より広く博物館活動の成果を公開するための基礎的なアーカイブス構築を進める一段階といえる。

研究成果の概要（英文）： We have reserched the museum archives in Japan by the interview and question seats. From this research, we grasped almost museums were preserved and opened the arhives on about museum managerial area and official contracts, but, some of on the academic based records were not so. It caused by a lack of rule on that domein. But they are very much important for museums. Actually, many museum's academic divisions preserve them under their rule, but, the preserved records varied at museums.

So, we would construct comprehensive museum archives include academic besed records. It should be useful for museums and also make clear for the social acpuntabilities of museums.

研究分野：博物館学

キーワード：博物館 博物館活動 アーカイブス 記録の保存と公開 アカウンタビリティ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

多くの博物館では開設当初の展示設計図面等は残されているが、その後の展示の小規模改変や展覧会に関する展示記録の保存が計画的に行われていない。博物館史研究の一部として、過去の展示の具体像の収集にかかったものの、展示そのものの図面や写真記録などが意外に少ないことが分かり、これらについて学芸員らに状況を確認したところ、学芸員各人が記録を保持している場合はあるものの、機関として公的に展示記録を残すというルールはないことが分かった。つまり、図録等によって展示の内容については理解が可能ではあるが、それがどのように展示されていたのかを知る手掛かりはほとんどなかった。近年ではデジタル化によって、こうした記録も残りやすくなっているが、その状況は必ずしも明確ではなかったため、博物館における活動の諸記録がどのように保存継承されているのかを調査する必要があると感じた。

2. 研究の目的

展示を含む博物館活動の諸記録がどのように扱われるべきものか、つまり現状では、博物館活動の具体的な記録（アーカイヴス）の意味が十分に理解されていないのではないかという危惧があり、その実態を調査するとともに、より高度で活性化された博物館の運営や活動を構築するためにも、各種の博物館アーカイヴスをどのように体系的に収集保管し、また活用するかが課題であると考えた。このため、博物館活動アーカイヴスとはどのようなものか、残されるべき博物館活動アーカイヴスは何か、博物館活動アーカイヴスの保存管理方法とその活用、等に関して具体的な整理を行い、わが国における博物館活動アーカイヴス構築のモデルを提言することを目的とした。

3. 研究の方法

博物館アーカイヴス・モデルとして参考になると考えるアメリカのスミソニアンとメトロポリタン美術館、ニューヨーク近代美術館のアーカイヴスについて調査を行う。加えて、関係者に対するインタビュー調査を行う。特にこれらの博物館において、何をアーカイヴスと認識しているのか、どのような収集整理を行っているのか、どのような保存管理方式をとっているのか、どのような活用が進んでいるのかについて担当者へのインタビューと実地調査を行う。ちなみにこれら3館では博物館アーカイヴスの保存管理にあたる専任のアーキヴィストがいるので、博物館アーカイヴスの保存管理と活用にあたってどのような体制整備が必要なのかも併せて調査する。この調査を通じて、実践的な博物館アーカイヴスの保存管理方法を検討する。また、申請者が過去に調査した英国立自然史博物館のアーカイヴス部門の調査も、担当アーキヴィストの協力を得て、ITCを活用して追加調査を行う。

研究分担者の所属する博物館における博物館アーカイヴスの現状を調査し、国内でのアンケート調査の準備調査とし、海外での調査を踏まえ、国内の県立規模の公立博物館10館ほどの博物館アーカイヴスの実態調査を行う。調査項目は、公立博物館における博物館アーカイヴスの扱われ方と、何がどの程度残されているのか、それに関する取り扱いの指針や規範が存在するのか、博物館アーカイヴス構築の意図や計画があるのか、等の調査である。

対象とする博物館としては、北海道博物館、宮城県美術館、埼玉県立歴史と民俗の博物館、神奈川県立生命の星地球博物館、新潟県立歴史博物館、名古屋市博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、大阪市立自然史博物館、鹿児島県立歴史資料センター黎明館を予定しているが、随時より小規模な博物館の実態調査も加えることとする。

2か年の調査結果を踏まえ、国内の博物館500館ほどを対象としたアンケート調査を実施し、博物館アーカイヴスの現状を確認するとともに、問題点を抽出する。この上で、わが国における博物館アーカイヴスのあり方を考えるために、博物館・文書館関係を中心に内外の有識者及び代表的ないくつかの博物館の関係者とシンポジウムを開催し、意見交換を行う。具体的には、博物館アーカイヴスとはどのようなものか、残されるべき博物館アーカイヴスは何か、博物館アーカイヴスの保存管理方法とその活用、等に関して実践的な整理を行い、わが国における博物館アーカイヴス構築モデルを提言したい。

3年度目における国際研究集会は、英米の博物館アーカイヴスの専門家及び日本のアーカイヴスの専門家と今回の調査に協力していただいた国内の博物館関係者によるものとし、申請者が取りまとめた問題点及び博物館アーカイヴス構築モデルの課題を提示して意見交換を行う。

以上の結果から、わが国における博物館アーカイヴス構築のモデルを考え、具体的な提言としてまとめる。

4. 研究成果

2016年、研究協力者の清水玲子、研究分担者の三浦留美の協力を得て、博物館アーカイヴス調査の質問票を作成し、その英文版を同じく協力者の倉持セラに作成させた。

日本語版の質問票については、研究分担者の新潟県立歴史博物館学芸員の山本哲也の助力を得て、改訂を進めた。英語版の質問票は、アメリカ合衆国のMetropolitan Museum of Art、Museum of Modern Art、Smithsonian InstitutionのArchives部門に送り、回答を求めるとともに、面接質問の機会を要請した。

アメリカ合衆国の3博物館のアーカイヴス部門の調査は、倉持セラの協力を得て、2017年1月末から2月初めにかけて実施した。Metropolitan Museum ArchivesではJames Moske(Managing

Archivist)との面談とアーカイブス収集の実態、その保存管理状況の調査を行った。Museum of Modern Art では、Museum Archivist のMichelle Hervay へのインタビューを行った。Smithsonian Institute Archives では、Tammy Peters(Chief Archivist)、Jennifer Wright(Archives and Information Management Team Leader)両氏と、アーカイブス収集の実態、その管理状況についてインタビューを行った。この結果については全日本博物館学会にて報告した。

国内向けの質問票については、2017年3月に山本の助力を得て、新潟県立歴史博物館におけるアーカイブスの現状の調査を行うとともに、改訂質問票を作成した。

2017年度及び2018年前半期には、研究分担者の山本、三浦、研究協力者の清水、伊豆原月絵、池永禎子、臺由子の協力を得て博物館アーカイブス、特に各種博物館活動の記録がどのように作成され、どのように保存管理され、公開活用されているのかを国内の主要博物館において実態調査を行い、関係者へのインタビューを実施した。対象とした博物館としては、北海道博物館、宮城県美術館、埼玉県立歴史と民俗の博物館、神奈川県立生命の星地球博物館、新潟県立歴史博物館、名古屋市博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、大阪市立自然史博物館、鹿児島県立歴史資料センター黎明館である。

2018年度後半には、昨年度実施した博物館アーカイブスについてのインタビュー調査を基に再改定した質問紙を作成し、郵送によるアンケート調査を全国500館(国立館および野外博物館、動物園、水族館、植物園は除外した)を選定し実施。211館から有効回答を得た。アンケート結果の集計及び基礎分析には、研究分担者のほか研究協力者の伊豆原、池永、臺、安田幸世、石雨鑫の協力を得た。

アンケート調査結果からは、現状では何を博物館のアーカイブスとして残すのかについての明確な基準あるいはコンセンサスはないといえる。従って、遺される質量は、館ごとに著しく異なると考えられる。博物館界全体の課題として博物館アーカイブスの在り方についての早急な検討が求められる。これに当って検討されるべき課題は、行政立では当然自治体の文書保存規定に従い運用されており、保存対象や廃棄年限は博物館の判断とは必ずしも同一ではないことをどのように扱うのが課題の一つである。これらは主として経営管理系の制度的アーカイブスであり、行政全体の基準に照らした扱いの他に、博物館が必要と認めるものについて独自に保存管理、継承できる仕組みを構築する必要がある。また、主として学芸系の記録(調査研究系、展示系、教育活動系)の内、制度的なアーカイブスに属さない部分に関して、何をどう遺す必要があり、どう管理するかについての議論が最も重要である。

本研究の総括として、アメリカ合衆国メトロポリタン美術館主任アーキヴィストのジェームス・モスケ氏、英国ベスレム心の博物館館長のコリン・ゲール氏を招いた国際博物館学セミナー「博物館アーカイブスの構築」を2019年3月1日に開催し、両国の博物館アーカイブス構築の現状を紹介いただくとともに、代表者らによる国内調査結果について、筑波大学教授白井哲哉氏を加えてアーキヴィストの立場から講評していただいた。この国際研究集会にあたっては、協力者の倉持、石、鄭に翻訳及び通訳について協力を得た。アンケート調査結果およびセミナーの内容については報告書「博物館アーカイブスの構築」を2019年3月22日に刊行した。

また、アンケート調査結果に関しては、2019年6月に全日本博物館学会に於いて報告した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

1. 倉持セラ、矢島國雄 「アメリカ合衆国における博物館アーカイブスの現状について」 全日本博物館学会第44回研究大会、2018年

2. 矢島國雄、山本哲也、伊豆原月絵、三浦留美、倉持セラ、池永禎子、臺由子「博物館活動アーカイブス・モデルの構築に向けて」 全日本博物館学会第45回研究大会、2019年

〔図書〕(計 1 件)

矢島國雄編 『博物館学国際セミナー報告書「博物館アーカイブスの構築」』明治大学 2019年

〔産業財産権〕

出願状況(計 1 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 1 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：山本哲也
ローマ字氏名：Tetsuya Yamamoto
所属研究機関名：新潟県立歴史博物館
部局名：その他部局等
職名：研究員
研究者番号（8桁）：10276438

研究分担者氏名：三浦留美
ローマ字氏名：Rumi Miura
所属研究機関名：和光大学
部局名：公私立大学の部局等
職名：講師
研究者番号（8桁）：50795242

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：清水玲子
ローマ字氏名：Reiko Shimizu

研究協力者氏名：倉持セラ
ローマ字氏名：Sarah Kuramochi

研究協力者氏名：伊豆原月絵
ローマ字氏名：Tsukie Izuhara

研究協力者氏名：池永禎子
ローマ字氏名：Sachiko Ikenaga

研究協力者氏名：臺由子
ローマ字氏名：Yoshiko Dai

研究協力者氏名：安田幸世
ローマ字氏名：Yukiyo Yasuda

研究協力者氏名：石雨鑫
ローマ字氏名：Kim Yuxin

研究協力者氏名：鄭瑞
ローマ字氏名：Rui Zheng

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。